

2 学力向上特配の効果的な活用

(1) 5, 6年の国語・算数は教科担当制



【学特は、5, 6年算数(少人数)】 【5年担任は、5, 6年算数(少人数)】 【6年担任は、5, 6年国語】

学力向上特配は、5, 6年算数の少人数指導を担当し、習熟度別編成を中心にした個人差に応じた指導の充実を図る。特に、上位群に対しては、活用力・応用力の向上を目指し、難しい問題にも挑戦させる。6年担任は、5, 6年の国語を担当し、5年担任は、学力向上特配と共に5, 6年算数の少人数指導を担当する。(上の写真)

本校は、全学年単学級なため、高学年の国語・算数はチームで指導する体制を取ったことから、教師の専門性を生かした学習指導だけでなく、共通した学習ルール・学習習慣の定着、生徒指導という面からも効果的を上げることができた。

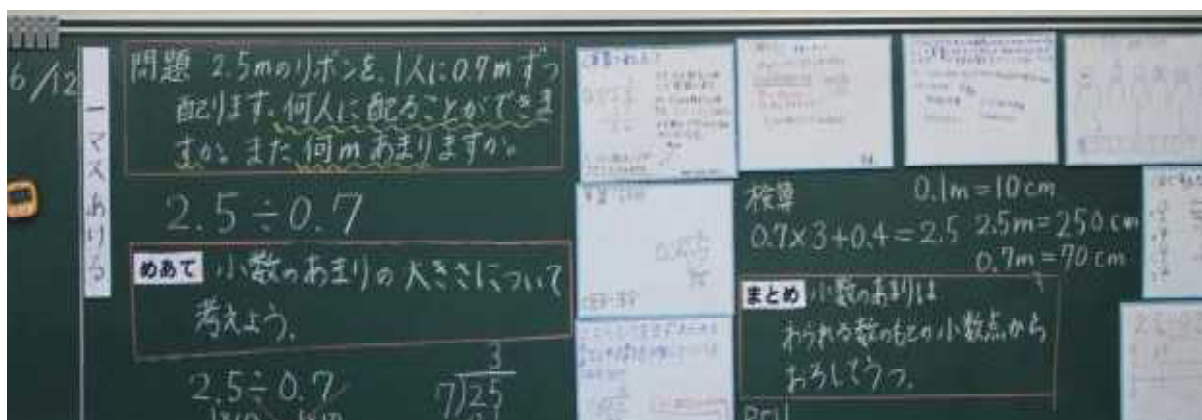
(2) 積極的な授業参観による指導・助言



【学特の積極的な授業参観の実施】



【授業後は、職員室で指導・助言】



【各学級で取り組む授業展開の工夫:

算数科における「めあての提示、板書の工夫、まとめの時間確保】

学力向上特配は、1年～6年までの国語、算数(5年は道徳)を中心に、積極的に授業を参観

し（前ページ左上の写真）、学校全体の授業づくりの核となって指導・助言を行う。各学級への授業参観については、年度当初に週時間割表に組み入れ、年間を通して計画的な参観及び指導・助言（前ページ右上の写真）が行えるようにする。

本校では、学力向上特配が、校内研修主任と学力向上コーディネーターを兼務しているの、校内研修で示された「研修のねらい」や「研修の見通し」が、授業参観を通してどのように具現化されているのかを確認することができた。また、日々の授業参観における指導・助言は、研修の日常化と職員全体の授業改善に向けた意識の向上、及び教師一人一人の授業力向上につながった（前ページ下の写真：各学級で取り組んでいる授業展開の工夫）。さらに、一人1授業実践のコーディネーター役となり、授業研究会では手立てを絞った話し合いを行い、明日の授業が変わる研修を行っている（下の写真：授業検討会の概念化シート）。



授業検討会の概念化シート

（3）既習事項の定着を図る補習体制の充実

平成25年度全国学力学習状況調査の結果分析において、本校の児童に不足している力は、既習事項の定着であることから、全校児童を対象に補習体制を工夫してきた。平成26年度からは、3校時前の10分間を「ちりつもタイム」（左下の写真）として校時表に位置づけ、国語と算数における既習事項の定着を目指して、ドリル学習中心の活動を取り入れてきた。学力向上特配の緻密な計画と、他の職員への積極的な働きかけで本校の教育活動に定着してきている。

本校における補習体制の工夫のもう一つの取組は、「チャレンジタイム」（右下の写真）である。前期は放課後の時間、後期はお昼休みの時間を使って、希望者を対象に個別の指導を行っている。チャレンジタイムは、学力向上特配が問題用紙の準備等計画し、マイタウンティーチャー等と共に指導に当たっている。児童の学習意欲を喚起するような働きかけで、多くの児童がチャレンジタイムに参加するようになった。



【ちりつもタイム（3校時前の10分間）】



【チャレンジタイム（放課後・お昼休み）】



【夏休み・チャレンジタイム（7日間）】

夏休みには、水泳教室前の時間を使って「夏休み・チャレンジタイム」（左の写真）を実施している。参加は希望制とし、冷房の効いた教室で1学期にやり残してしまった学習ドリルや夏休みの課題等に取り組んでいる。必要に応じて、個別指導を行い、1学期の学習内容の確実な定着を図っている。

（4）児童の実態把握と各種学力テスト結果の分析

新年度が始まって間もない4月6日に、学力向上特配を中心にして、KJ法を用いた研修会を実施し、本校の児童の実態を把握して1年間の授業実践の方向性を確認した。（左下の写真）



【南小児童の実態把握（KJ法）】



【全国学力学習状況調査の自校採点と分析】

また、4月に実施された「全国学力学習状況調査」については、5月上旬までに学力向上特配を中心にして自校採点を実施した。その結果をもとに、5月下旬に校内分析を行い、達成不十分な問題から今後の方策を立て、1学期中盤以降の指導の重点とした。（右上の写真）



【小グループによる検討・分析】



【分析のまとめ（学力向上特配）】

この他にも、CRT、NRT、QUなどのテストについても、学力向上特配を中心にKJ法を用いて分析を行い（上の2枚の写真）、具体的な方策を立てて取り組んでいる。

(5) 道徳授業の参観と支援



【4年・道徳へT2として支援】

新学習指導要領による「道徳の教科化」へ向けての支援体制として、1～3年は教務主任が、4～6年は学力向上特配が、道徳授業にT2(左の写真)として関わっている。資料の活用方法や発問の吟味、展開の工夫など、道徳の時間の授業改善に向けて取り組んでいる。

(6) 学力向上に向けた家庭への啓発

平成26年度から「家庭学習の習慣化」にも力を入れている。学力向上特配を中心に「学力向上だより『明日への力』」を発行(下段中央の資料)したり、家庭学習カードを見直したり(左下の資料)した。また、今年度ははじめには、「家庭学習のすすめリーフレット」(右下の資料)を学力向上特配を中心に作成した。保護者への啓発もあわせて、家庭学習の充実に向けて取り組んでいる。

家庭学習カード (5年生・6年生)								
今年のもあて 合計300分以上勉強する								
6月(一日50分以上 一週間 合計300分以上勉強しよう) ※できた○ できない×								
内容	日付け	15日(月)	16日(火)	17日(水)	18日(木)	19日(金)	20日(土)	21日(日)
宿題		○	○	○		×	○	○
音読・読書	題名	×	○	×		○	×	×
自主勉強	内容	○	○	○		×	○	×
勉強した時間(分)	累計(多い)	30分	90分	86分		7分	50分	20分
先生のサイン		○	○	○				○

【全学年共通の家庭学習カード】

【家庭学習のすすめリーフレット】

【学力向上だより『明日への力』を発行】